

2012年2月29日

富士重工業 軽自動車の生産を終了 ～ 軽自動車生産工場は登録車生産工場へ転換 ～

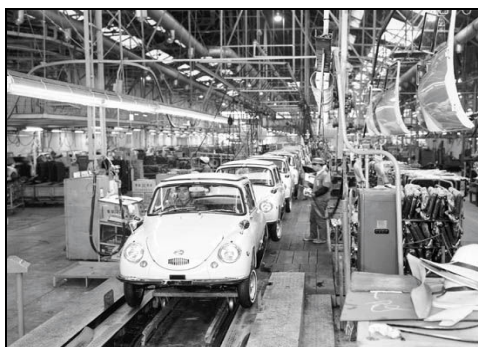
富士重工業は、本日、軽商用車サンバーの生産を終え、全ての軽自動車の生産を終了します。軽自動車を生産してきた群馬製作所本工場(群馬県太田市)は3月以降、登録車生産工場へとリニューアルし、トヨタ自動車との共同開発車であるSUBARU BRZ/TOYOTA 86の生産を開始し、さらに2012年度中にインプレッサの生産を開始する予定です。

スバル車の生産は1958年、日本の国民車と絶賛された軽自動車「スバル360」から始まりました。軽自動車生産はスバルブランドの原点です。その後サンバー、レックス、プレオ、ステラなど、54年間で延べ9車種、約7,968千台を生産しました。スバルの軽自動車は乗用車、商用車共に4輪独立サスペンション、4気筒エンジン、CVT(無段変速機)の採用や4WDの展開など、登録車並みの機構や商品性を特長とし、好評をいただきました。

本日の生産終了に先立ち2月28日に、当社社員、役員、OB等の出席のもと、サンバーの生産終了式典を実施しました。式典で当社の吉永社長は「多くのお客様から惜しまれながら生産終了を迎える製品を持つことは、メーカーとして大変幸せなことです。あらためて、お客様をはじめとする、関係者の皆様に感謝を申し上げます。」と述べました。

当社は2008年4月のトヨタ自動車(株)とダイハツ工業(株)との協力関係発展への合意を機に、水平対向エンジン等のコア技術を活かす登録車の開発や生産に経営資源を集中することを決断し、以降、軽自動車の開発と生産を順次終了してきました。なお、軽自動車は引き続きダイハツ工業(株)からOEM供給を受け、スバル販売店において販売していきます。

富士重工業は、これからもスバルのブランドステートメント“Confidence in Motion”を通じて、お客様のご期待に応え、常にあらたな価値を提案し続け、「安心と愉しさ」を確かなモノづくりで実現していきます。



スバル360の生産ライン



サンバー生産終了式典